



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

# Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 003 April 26, 2004

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

**FAX番号 03-5542-2912**

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。  
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。  
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

## BSE関連ニュース

### ●米国農務省(USDA)代表団、来日へ

4月10日に来日したチェイニー米副大統領は、「日本への牛肉輸出は米国にとって重要な課題である」としたうえで4月23日来日する米代表団と日本政府との会話が問題解決の基盤になると述べている。米代表団は米国農務省ペン農務次官以下副次官、保健・福祉省部長クラスが同行。

※2004年4月13日 Meatingplace.com,MEF

### ●メキシコ、ボンレスビーフに続く牛肉製品の禁輸解除を発表

メキシコ農畜産農村開発漁業食料省は、米国産の内臓肉の一部、子牛肉及び油脂の禁輸解除を発表した。米国のベネマン農務長官は、「メキシコ市場の再開は、北米の牛肉市場が正常に戻りつつあるという非常に良い動きだ」と語った。

すでにメキシコは3月3日に、ボンレスビーフの輸入解禁も発表している。つまり米国は、2003年度の同国への牛肉輸出額10億ドルのうち、およそ74%である7.46億ドルの市場に取り組むことになる。

メキシコへの上記製品輸出に関しては、下記のUSDAのホームページ参照のこと。

[www.ams.usda.gov/lsg/arc/bevmexico.htm](http://www.ams.usda.gov/lsg/arc/bevmexico.htm)

※2004年4月9日 米国農務省プレスリリース

### ●米国、カナダからの生体牛輸入解禁を検討中

USDAは3月上旬、カナダからの生体牛輸入の再開について、30日間のパブリックコメント提出期間を設けた。4月7日がその期限だったが、両国とも早期の再開を見込んでいる模様。しかしベネマン農務長官は、禁輸解除には十分な話し合いや法的手続きが必要だとして、輸入再開の時期については言及していない。

※2004年4月7日 NAMP Newsfax



## 米国食肉市場ニュース

### ～ 牛肉 ～

牛肉市況 (4月5日～9日)

- 週間と畜頭数：56万頭 (前年比13.4%減)。
- 肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり)：主要5市場では、平均86.06ドル (先週比2.02ドル高)。枝肉価格は137.08ドル (同3.33ドル高)。中西部の直接取引84～89.00ドル (平均86.40ドル)。ハイブレンズでは85～87.00ドル (平均86.00ドル)。
- 牛肉価格：先週より高め。歩留まり等級2～3のチョイスは157.48ドル。(先週比17.47ドル高)。YG2～3のセレクトは140.37ドル (同15.43ドル高)。
- 肥育牛の重量：肥育去勢牛は先週より2～3ドル高。肥育未經産牛は先週と同じ、もしくは3ドル高。600ポンド以下は先週と同価格。

オクラホマシティにおける去勢素牛の体重別、100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

体重 (ポンド)	4月5～9日
400～500	119～127.50
500～600	108～127
600～700	96.50～112
700～800	92～101
800～1000	83.50～94

※2004年4月9日 Cattle Outlook (Glen Grimes & Ron Plain)

### ●春の市場予測

生体牛の市場は、4月第1週で86～87ドル (前週比2～3ドル高)。まだ高くなる見込みで、3月20日の週に記録した88ドルまで上がる可能性も。パッカーより生産者が優位の状況によると、アナリストは考える。と畜頭数の調節にも関わらず、市場に出せる牛の供給頭数は未だに厳しい。

1月中旬の予想では、4月1日の肥育牛頭数は昨年の40%増を見込んでいたが、飼育総頭数 (COF) レポートでは、実際は昨年の16%増にとどまった。4月第1週木曜日のヘビーチョイスの取引価格は155.52ドルで、昨年の12月9日以来の高値だが、これが市場にどう影響するかは予測が出来ない。

また、カナダからの生体牛輸入の再開も、市場の動きに影響すると見られる。5月中旬以降に再開されるという予測もあるが、これは米国の需要が最も高い数ヶ月を控えて、USDAが早期に解禁するかもしれないとの見方からだ。しかし、その場合の頭数予測もまた難しい。

※2004年4月12日 Cattle Buyers Weekly

### ～ 豚肉 ～

豚肉市況 (4月5日～9日)

- 週間と畜頭数：約200万頭 (前年比3.7%増)。
- 肉蓋の現金取引価格：主要市場の価格は、前週比100ポンド (約45kg) 当りの豚肉製品価格 (4月9日/US\$) 0.75～3ドル安。

主要市場における100ポンド (約45kg) 当たりの最高価格 (US\$)

	4月9日
ペオリア	39.00
セントポール	—
スーフォールズ	—
ミズーリ中央部	43.00

185ポンド物 (約84kg) の枝肉平均価格 (US\$)

	4月9日
東部トウモロコシ地帯	59.91
西部トウモロコシ地帯	60.24
アイオワ・ミネソタ	60.22
全国	60.19

製品名	価格 (前週比増減)	備考
ロイン	113.33 (+1.33)	トリム1/4インチ
ボストン・バット	85.00 (+2.50)	トリム1/4インチ
ポークベリー	114.00 (前週と同じ)	14～16ポンド物 (約6.3～7.3kg)
ハム	49.00 (-2.00)	17～20ポンド物 (約7.7～9.1kg)

※2004年4月9日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

## 業界ニュース

### ●カーギル社、増収を発表

カーギル社は、2004年第3四半期の売上高を2.59億ドルと発表した。前年同期の2.43億ドルに比べ7%増。停止事業の売上高を加えると、前年同期比11%増の2.71億ドルの総売上高となる。アジアでの鳥インフルエンザ勃発と米国でのBSE発生のため、今期は牛肉と鳥肉の輸出が禁止または縮小した。しかし食肉加工、飼料用穀物取引などの一部は影響を受けたものの、迅速な状況判断や、堅調な米国内の牛肉需要とビジネスの多様化で、全体への影響は緩衝された。

※2004年4月13日 AgWeb News

## 業界ニュース

## ●食肉研究活動、国際的な賞を受ける

米国の科学者チームが、国際食肉事務局 (IMS) から2004年食肉科学技術賞を受賞した。この賞は、ビーフ・マッスル・プロファイリングと呼ばれる食肉研究活動に与えられたもので、ネブラスカ大学およびフロリダ大学の食肉専門家とNCBA (全米肉牛生産者・牛肉協会) の共同プロジェクト。同チームのメンバーは、食肉科学専門でネブラスカ大学教授のカルキンス博士とジョーンズ博士、食肉科学専門でフロリダ大教授のジョンソン博士、NCBAディレクターのグオートニー博士ら。同チームは、牛のチャック(肩)、ラウンド(モモ)など5,500以上の筋肉組織を分析。従来ひき肉やローストに使用されている部位の中に、より高価値の製品として使用できるものがあることを発見。NCBAや業界と連携して、筋肉の部位に関する幅広い情報および研修を提供している。

※2004年4月13日 MEATNEWS.COM

## ●今後も日本市場向けに品質向上を図る—米国豚肉業界

USMEFでは、3月15日、『シェフとポークの美味しい法則。』の出版に合わせ、メディアを対象としたアメリカンポーク懇親会を開催。出席したNPB (全米豚肉委員会) のホックマン代表は、次のように述べた。1) アメリカンポークは低脂肪で、品質が安定し美味。日本市場では過去5年間、需要が着実に拡大している。2) 米国では日本向けの豚を生産。品種改善や肉質安定に努めている。3) デュロック、バークシャーの新種を導入。各パッカーは日本市場専門の製造ラインを設置。高度な品質管理に努めている。4) 購買力のある日本市場向けに、プレミアム商品の提供を計っていく。

※2004年4月5日 食品情報ジャーナル

## イベント情報

## ●「2004 ジャパンフードサービスショー」にアメリカン・ミート料理のブースをオープン

2004年5月13日(木)～16日(日)、パシフィック横浜にて行われる「2004 ジャパンフードサービスショー」に、「150 years of American Meat Dishes in Japan」をオープンいたします。

アメリカ調の明るくポップなイメージに仕上げたブースで、アメリカン・ミートが日本に浸透してきた歴史やおいしさ・安全性などをご来場の方々にお伝えします。

また、ペリーが食べた150年前のアメリカン・ポーク料理を人気シェフが調理実演。試食会も行いますので、是非ご来場ください。

■開催期間：2004年5月13日(木)～16日(日)

■会場：パシフィック横浜 展示ホールC・D

■入場料：大人1000円 小中学生200円

全国のコンビニエンスストア、みどりの窓口、チケットぴあ等にて前売り700円(税込)で発売中です。

「2004 ジャパンフードサービスショー」の入場券をプレゼント

ご希望の方は下記にお問い合わせ下さい。

米国食肉輸出連合会 島田

TEL:03-3584-3911 FAX:03-3587-0078

HP:<http://www.americanmeat.jp/contactus/>

※入場券が無くなり次第終了させていただきますので、ご希望の方はお早めに!



## 速報ニュース

●コメント:4月24日日米BSE協議を受けて米国産牛肉輸入再開に向けた重要な前進  
4月24日東京で12月24日より停止している米国産牛肉輸入等について日米間で協議し、本年夏頃を目途に米国産及び、日本産牛肉の双方輸入再開について結論を出すべく努力することで意見の一致があった。また、技術的・専門的事項についても専門家及び、実務担当者による会合を五月中旬以降までに立ち上げ、毎月一回以上実施することとなった。技術的・専門的事項は1) BSEの定義・検査方法、2) SRMの定義と除去方法、3) サーベイランスのあり方、4) フィードバンのあり方、5) 国としてのカテゴリー区分、6) 牛の月齢鑑別方法、7) その他。

今回の貿易再開に向けた骨子合意に関して幣連合会会長、フィリップ・セングはこれによって「米国産牛肉輸出が来週にも再開されるというものではない。」としながらも、米国産の「牛肉輸出にむけた最初の重要なステップ」と位置づけ、「両国政府が科学的見地を基にした将来的判断の必要性及び、日米両国にとって米国産牛肉貿易の重要性を認識したものである。今回の基本案の合意は極めて重要な一歩であり、日米協議の骨子作成に尽力された日米協議団に敬意を表する。」と述べた。